

第3回 相互行為と語学教育

日時：2021年12月12日（日）13:00-16:30

日本女子大学目白キャンパス他よりZoom配信 *参加費無料

*参加申込方法：下記URLまたはQRコードへアクセス

(12月10日締切) <https://forms.gle/XWFrgmEAYkrHZK6v7>



【事務局】：日本女子大学 留学生科目中央研究室 e-mail: ryugakuken@fc.jwu.ac.jp

本シンポジウムは、会話における話し手と聞き手の相互行為を対象に分析を行い、その成果を語学教育の現場に活かすことを目的としています。

第一部：研究発表 13:00-14:40

<相互行為にみられる言語調整機能>

【司 会】田邊和子（日本女子大学）

【趣旨説明】竹田らら（昭和女子大学）

【発表者1】吉田理加（立教大学）

「正確な法廷通訳とは ー異文化をどのように通訳するかー」

A言語で「言われたこと（言及指示）」をそのままB言語に訳出すると「なされたこと（相互行為）」が異なる意味で解釈される場合が多々ある。法廷通訳者が抱えるこのようなジレンマを傍聴事例をもとに紹介し、考察する。

【発表者2】望月雄介（立命館大学）

「中国語初対面会話における自己開示の談話分析」

自身の名前、年齢といった個人に関する客観的情報と所属、学年といった会話参加者の共通基盤である学校生活に関する情報に着目し、会話が展開されやすい開示情報と展開されにくい開示情報について論じる。

【発表者3】周浩（日本女子大学大学院生）

「自由会話における発話の重なり後のトピックの展開について
ー親しい3者による中国語母語場面の分析ー」

これまで中国語母語話者は日本語母語話者と比較して、発話の重なりを通して新たにトピックを展開する特徴があると指摘されている。この特徴が親しい3者による自由会話においても見られるかを分析する。

第二部：招待講演 15:00-16:30

「翻訳の実践」
招待講演者：柴田元幸氏（翻訳家）



「長年、主として現代アメリカ小説を翻訳してきた立場から、文学作品を翻訳する際に繰り返し直面する問題を紹介し、言語を専門とする皆さんが、日本語、英語あるいは、言語全般に関して考えるヒントが提供できればと願っています。」

【講演者紹介】

米文学者・東京大学名誉教授。翻訳家。『生半可な學者』で講談社エッセイ賞受賞。『アメリカン・ナルシス』でサントリー学芸賞受賞。トマス・ピンチオン著『メイスン&ディクソン』で日本翻訳文化賞受賞。翻訳の業績により早稲田大学坪内逍遙大賞受賞。アメリカ現代作家を精力的に翻訳するほか、著書も多数。
(文芸誌『MONKEY』責任編集)